



多様な主体が参画し 協働していくためのプラン

三重県知事 野呂昭彦

ごみゼロ社会実現プランは、持続可能な資源循環型社会の構築という大きな目標に向けて、住民、事業者、行政など多様な主体が共有すべき取組の指針であり、長期的な展望のもとに参画・協働していくためのプランです。

思えば、一昨年の中核発電所の事故を契機に、ごみ政策のあり方を見直す必要があるという思いを強く抱いたことが、このプランをつくるきっかけでした。私が、見直しの必要性を強く感じたのは、これまでのごみ政策が、「ごみは発生するもの」とし、リサイクルや適正処分など「ごみをどう処理するか」ということに力点を置いていたからです。「発生したごみは適正に処理すればよい」という考え方がごみ政策の根底にある限り、豊かで住みよい地域社会の未来像を描くことはできません。

また、ごみ問題の解決のためには、ごみとの関わりにおいて、住民、事業者、行政等が自らの役割を再認識し、意識・価値観・行動を転換することが不可欠であり、個人のライフスタイルや事業活動のあり方、社会経済システムを、ごみ問題を通して変革していく必要があります。

こうした考え方のもと三重県は、「ごみゼロ社会」の実現をめざし、長期的な視点から取り組んでいくこととしたのです。

今後は、県民や事業者のみなさんにご理解、ご協力をいただくとともに、具体的な方策について市町村の方々とも話し合いながら、このプランを推進してまいります。また、県内各地で一層のごみ減量等に向けた取組が、地域主導で進められることを念願しております。

「ごみゼロ社会」の実現において脇役は 아닙니다。また、「ごみゼロ社会」は一朝一夕に実現するものでもありません。ごみに関わるあらゆる個人や組織が、ごみをなくそうとする熱意、相互の連帯協力、そして実践における忍耐力を長期間維持しつつ取り組んでこそ、初めてその姿が見えてきます。かけがえのないこの三重の地域を美しく健全な姿で未来の子ども達に残し伝えていくためにも、ともに行動を起こそうではありませんか。

最後になりましたが、このプランの策定にあたりまして、ご意見、ご提言をいただきました県民、事業者のみなさん、並びに、9か月にわたり熱心にご審議いただきプランを取りまとめたいただいたプラン策定委員会及びアドバイザー会議の委員の方々に厚くお礼申し上げます。